教員名	藻利 衣恵	所属学科	経営学科

【ゼミでは何を学ぶのか】

企業が「材料を購入して品物を作りそれを売って儲ける」等の活動を行うには、お金が必要となります。しかし、その額は莫大なものとなるため、通常、一個人が所有しているお金だけでは足りず、企業は企業外部の人々からお金を調達する必要が出てきます。

では、その人々は無償でお金を提供してくれるでしょうか。皆さんも自分のお金を無条件で知らない人に渡すことはできないでしょう。でも、もしその企業のお金の使い道や儲けに関する情報がわかれば、安心して自分のお金を提供できるかもしれません。そこで、企業が企業の外部の人々からお金を提供してもらうために、これらの情報を伝達する。これが財務会計で、私のゼミで勉強する内容です。

この情報ですが、企業が自分勝手に情報を公開したとしても、どれがよい企業かはわかりません。そのため、情報を開示する際には、一定のルール（会計基準）が課されます。この会計基準ですが、企業と関連する法律が変更されたり、企業の経営の仕方等が変わったりすれば、それらに応じてすぐに変更されるため、現在、毎年、多くの会計基準が変更されています。そのため、皆さんが社会人になった後会計基準が多く変更されてもその変更に対応できるように、財務会計Ⅰ・Ⅱやゼミでは、主として、国内外の会計基準の中身（会計基準の体系や、その背後にある会計理論など）を勉強します。

【どのように学ぶのか】

財務会計は、大きく分けて、つぎの三つに分かれます。

① 簿記：（経理や経営者の立場に立ち、）企業のお金の使い道や儲けに関する情報（財務諸表）を作成するための計算の仕方
② 財務会計：（経理や経営者の立場に立ち、）財務諸表を端的にまとめるためのルール
③ 経営分析・財務諸表分析：（企業にお金を渡す株主や債権者の立場に立ち、）財務諸表を分析して、(1)現状、この企業はどのような状態か、(2)将来この企業はどうなっていくかを、主に数字を使って分析

私のゼミでは、大学を卒業後、ゼミ以外で、（大学以外の友人や会社の人なども含めた）ゼミ以外のメンバーと、大学で習った企業に関する知識を使って自由に議論するために、次のようなことを行います。まず、①から③に関する知識を、ご自身で調べたり、関連する授業を聞いたりすることで、得ていただきます。そのうえで、大学を卒業した後自由な議論ができるよう、授業等で得た知識を、ゼミのメンバーで、実習（ディベートやディスカッション）形式で議論します。

なお、各学年で学ぶことの概要は、次の通りです。

● 基礎演習（2 年後期）:

(1) 財務会計の基本的な知識を習得します。

(2) 慶応ビジネススクールのケーススタディを用いて、実際の財務諸表にどのようなことが記載されているか、それらが企業の経営（戦略）等とどのような関係を有しているかを理解してもらいます。

● 演習Ⅰ（3 年）:

(1) 演習Ⅰ前期の前半では、基礎演習で習得した知識を用いて、現在日本で用いられている会計基準の体系を説明しており、財務会計Ⅰで使用している教科書（斎藤静樹. 2016.『企業会計入門――考えて学ぶ（増補版）』. 有斐閣.）を自分たちで発表してもらい、知識をより定着してもらいます。そのうえで、各章の章末問題を議論してもらいます。

(2) 演習Ⅰ前期の後半では、研究の基本的な方法を学ぶため、これまで習得してきた、専門知識、伝達のスキルや、情報収集の方法を総動員させて、自分たちの興味があるテーマをグループで設定して、グループ研究をしてもらいます。そのうえで、その成果を、演習Ⅰ後期において、インナー大会、学内のプレゼンテーション大会（学長杯）や、他大学とのインターゼミで発表するための準備を行います。

(3) 演習Ⅰ後期は、(2)のプレゼンテーションの準備とともに、海外企業や世界的に活躍している日本企業が使用している会計基準である国際財務報告基準（IFRS）の内容を勉強したり、就職活動の準備をしたりしています。

● 演習Ⅱ（4 年）:

演習Ⅰの(2)で、グループで行った研究の仕方を、個人で行ってもらいます。より具体的に言えば、（勉強だけでなく、部活やアルバイトも含めた）大学生活 4 年間の学生生活を通じて学んだ中で興味のあるテーマについて研究してもらい、20,000 字以上の卒業論文にまとめたうえで、最後の卒業論文発表会で発表していただきます。

近年、ゼミ選考は、教員との1対1での面接（または面談）とエントリーシートで行っています。ゼミの応募内容は、大学公式の情報、および教員のホームページならびに公式LINEに記載していますので、ゼミ選考が始まる前に把握した上で、選考に臨んでください。

【学んだことはどのように生かせるのか】

● 私の授業やゼミで教えていることは、資格試験等において、必ずしも即効性がある内容ではないと思います。「社会に出てすぐに役立つ現在の会計基準または現在の日商簿記検定の試験範囲を、教えてほしい」というニーズもあるでしょうが、【ゼミでは何を学ぶのか】のように、会計基準は、毎年、変わっていきます。（それと共に、簿記の仕訳［計算処理方法］も変わります。）このような現状を踏まえると、現在の表面的な会計基準を教えても、すぐに役に立たなくなるのではないかと考えています。このような考えのもと、多少難しくても、私の授業やゼミでは、ある会計基準が

変更されても変わることがない、財務会計の基礎理論を教えることにしています。
● 私のゼミでは、主に財務会計を教えていますが、併せて、社会人になってからも、一人で勉強することもあると思いますので、（一般的な）研究の仕方などを中心に教えるようにしています。これも、「社会に出てすぐに役立つ」とは限りませんが、長期的に役に立つとは思います。

【おすすめの入門書・基本テキスト】

● 斎藤静樹．2016.『企業会計入門－考えて学ぶ（増補版）』．有斐閣.

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

大学とは、高校を卒業して社会人になるまでの間に、学生自らが自分の能力を高めるために訓練（英語や簿記等の専門知識・技能だけでなく、自分の頭で考えるための技術も含む）を施す機関です。高校までと比べると、一気に自由度が高まるため、時間割や（勉強、アルバイト、部活やサークル等に割り振る）時間の使い方なども自分で決めなければなりませんし、授業の形式や内容もさまざまです。

受け身になって何となく 4 年間を過ごすこともできますが、主体的に本当に頑張っている人とは、差がつきやすい時期でもあると思います。また、社会人になってからは、誰も注意してくれません。人生の中で一番自由な時間ですので、（勉強でも、アルバイトでも、部活やサークルでもよいと思いますが、）ぜひ主体的に行動して、その時間を謳歌し、充実した 4 年間を過ごしてください。